

金剛俳句会と俳句と私

網 佑子

金剛俳句会にお誘いをいただいて間もないころは不安でした。いろいろご指導いただく中で「感動が原点」に深く共感し心に残りました。

ふと「生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける」という「古今和歌集仮名序」の一節が思い出され、「生きとし生けるものみな、感動を表現せずにはいられない、そこに詩歌が生まれる」と、改めて感じる事が出来、少し「作句」への不安が和らぎました。

それまで「見れども見えず、聞けども聞こえず」の状態にあったことに、句を工夫し詠むことを重ねるうちに気付かされました。

これからも「感動を原点」に精進したいと、芭蕉の目指した「俳句の本格」を探りたいとも思っております。折しも、佐藤多恵子さんから参考になる貴重な本をお送りいただきました。無期限にて。

俳句と私のそもそもは、佐藤多恵子さんの『歌集』を或る時の同窓会で知って拝見し、その美意識の鋭さ、内容の豊かさに驚き感動し、面識のなかった佐藤多恵子さんにお便りを差し上げたところから始まりました。

その後、お花見（金剛俳句会のお花見吟行）のお誘いを受け、その日を楽しみに待たせていただいている間に、私に、ガン検査結果陽性の通知が届くというハプニングが発生しました。多恵子さんは大変ご心配下さり、欠席だと人数の関係もあるので、主宰の中野陽典さんにお電話するようご助言をいただきました。



ところが、思いがけなく、中野陽典様からガン検査への手厚いご指導をいただき、お陰様で結果は無事でした。

この時以来、主宰としてばかりではなく医師として、中野陽典様には多大なご指導を仰ぐこととなり、人生の最難関・夫の最期を、的確なご指導のお陰で希望が叶い、自宅にて二人で過ごすことが出来、安らかなほほ笑みのままの大往生でした。俳句との出会いをご縁として、改めて中野陽典様の理性的で、的確なご指導、温かいお人柄に触れさせていただくこととなり、心から感謝いたしております。

余生にて、俳句の会にお誘いいただき、錚々たるお仲間と相逢い、拙句詠みでありながら創り出す苦しみを凌ぐ愉しさをともに味わわせていただいておりますこと、ありがたく感謝いたしております。

これからも、命ある限り感動を原点に、懐いを五七五に結晶させて参りたいと思っております。

吉田以登さんの句集『天辺の桜』を回覧にて拝読しました。秀逸な発想、表現されている視野の広大さ、表現の巧みさは申すまでもなく、重ねて来られた充実の人生を、愛溢れるご家族への思い等々垣間見させていただき、読後しばらく、感慨、感動に浸っておりました。これほどに、自在に表現できましたら楽しいでしょうね。今日までのプロセス、最も腐心されたこと、日ごろ心がけておられることなどお聞かせいただけたらと願っております。

